

叡啓大生「ラジオ」 本音で広島トーク

県立叡啓大(広島市中区)の学生が紙屋町地下街シャレオ(同)に拠点を構え、広島の魅力や課題を語り合うラジオ風の音声番組の配信を始めた。若者の県外流出への課題感が広がる中、「広島を『帰りたい』と思える場所へ」を合言葉に、学生MCと社会人のゲストが本音トークを繰り広げる。5回目の22日は、広島エフエム放送(広島FM、南区)や「中国新聞U35」と初めてコラボして公開収録に臨む。

シャレオに拠点 番組配信



(佐藤弘毅)

番組名は「シャレオでラジオ」。市中心部のまちづくりを考える官民連携組織「広島都心会議」の協力でシャレオ西通りの交流スペースに「スタジオ」を開き、7月に始めた。これまでレストランや建設会社で働く社会人と仕事やまちづくり、「広島愛」などを語り合ってきた。収録した番組は、音楽配信サービス「スポティファイ」で配信している。

「対面で時間を共有するからこそ伝わる温度感

ゲスト出演した広島FMの番組で、大窪さん(手前)に取り組みを紹介する川原さん(奥右)たち

中国新聞
U35

魅力や課題 ゲストと語る 22日に公開収録

や、「ながら」で聞ける気軽さが心地よい」。発起人の4年川原壮太さん(22)はラジオの魅力をこう表現する。新型コロナウイルス禍だった3年ほど前、大学の友人との会話を録音して聞き直すうちに、音声メディアの可能性に気付いたという。

若者と広島の「縁」を増やすため、学生と社会人が交わるラジオをやりたい。まちづくりイベントなどで企画の協力者を得て実現させた。広島都心会議事務局の佐藤彰彦さん(43)は「若者の活躍の場をつくるのが大人の役目。自由なアイデアをたくさん聞きたい」と期待する。川原さんは「魅力的な場所や人は多いんだよって伝わればうれしい」と思い描く。

22日の公開収録は、シャレオで午後1時から。広島FMの看板DJ大窪シゲキさん(46)と中国新聞記者をゲストに、「広島の待ち合わせ場所」などの話題でトークする。中国新聞U35のインスタグラムなどでライブ配信し、スポティファイでも後日配信する。